

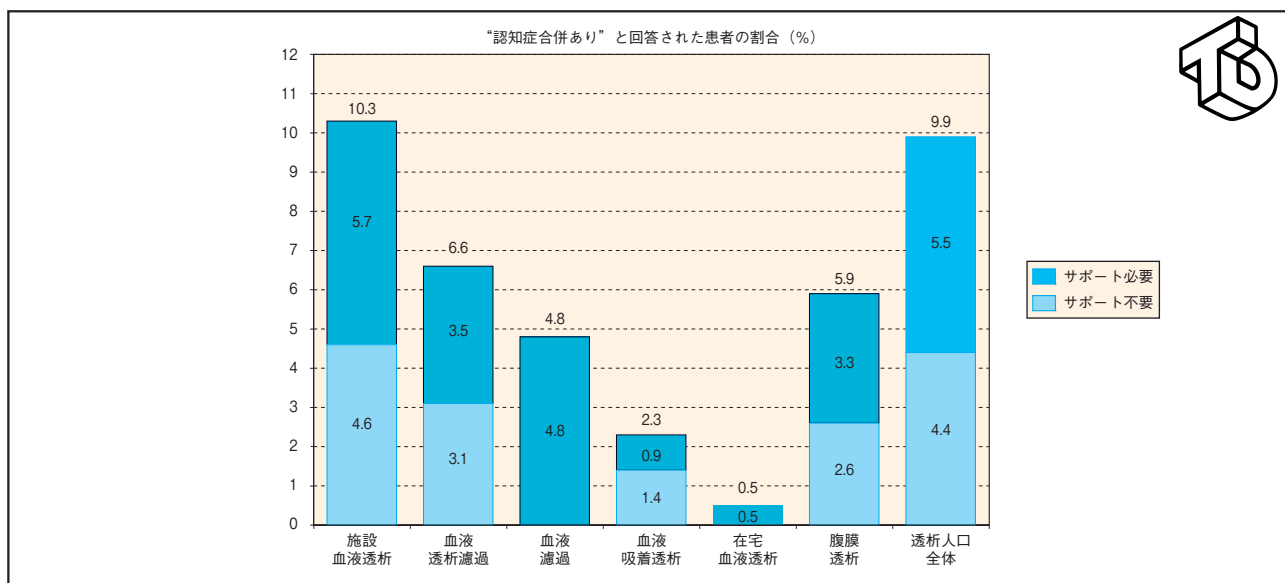
3) 認知症

前回（2009年末調査¹⁾）に引き続き、今回の調査（2010年末調査）でも認知症合併の有無が調査された。調査内容は昨年調査と同様である。すなわち、以下の4つの選択肢をもって調査され、その判断は回答者に委ねられた。

A なし B あり（サポート不要） C あり（サポート要） Z 不明

以下に掲げるグラフでは、“Aなし”、“Bあり（サポート不要）”そして“Cあり（サポート要）”のいずれかに回答のあった患者総数に対する、前記各項目に回答のあった患者数のパーセンテージを示した。

(1) 治療方法と認知症（図表29）



認知症 治療方法別（透析患者全体）

認知症	施設血液透析	血液透析濾過	血液濾過	血液吸着透析	在宅血液透析	腹膜透析	合計
なし (%)	192,169 (89.7)	11,590 (93.5)	79 (95.2)	1,563 (97.7)	186 (99.5)	5,726 (94.1)	211,313 (90.1)
あり (サポート不要) (%)	9,846 (4.6)	383 (3.1)	0	23 (1.4)	0	157 (2.6)	10,409 (4.4)
あり (サポート要) (%)	12,265 (5.7)	428 (3.5)	4 (4.8)	14 (0.9)	1 (0.5)	200 (3.3)	12,912 (5.5)
合計 (%)	214,280 (100.0)	12,401 (100.0)	83 (100.0)	1,600 (100.0)	187 (100.0)	6,083 (100.0)	234,634 (100.0)
不明	2,577	71	1	8	0	149	2,806
記載なし	44,067	2,126	68	264	85	2,963	49,573
総計	260,924	14,598	152	1,872	272	9,195	287,013

患者調査による集計

解説

透析人口全体で“認知症あり”と回答された患者は9.9%であった。これは前回調査結果¹⁾とほぼ同じ値である。治療方法別では、施設血液透析患者の認知症合併率が10.3%と最も高かった。これは前回調査と同じ値である。なお、前回調査では血液濾過患者で認知症合併率が20.4%で最も高かったが、今回調査では4.8%とかなり低い値であった。ただし、認知症に関して回答があった血液濾過患者は前回調査で44人（内9人が認知症あり）、今回調査でも83人（内4人に認知症あり）と極少数である。従って、その変動の意義の解釈には慎重を要すると考えられる。

腹膜透析患者の認知症合併率は5.9%と施設血液透析患者の10.3%に比してかなり低い値を示した。在宅透析として腹膜透析が適応される場合、患者には一定の認知能力が要求される。腹膜透析での低い認知症合併率は、このような事情を反映した所見と考えられる。在宅血液透析患者の認知症合併率が最も低かったことにも、同様の事情が影響していると考えられる。